五ヶ瀬川の畳堤を守る会 会長
木原万里子 さん

第5回

自らまもる活動レポート

平成17年の台風14号では、県内各地で大きな被害を受けました。第5回は、五ヶ瀬川に現存する歴史的価値の高い「畳堤」の調査研究や、地域防災に関する活動を行っている「五ケ瀬川の畳堤を守る会」会長の木原さんにお話を伺いました。

●「畳堤」とは…

コンクリート製の枠に畳を差し込めるようにした堤防で、増水時に畳を差し込んで町をまもるために先人たちの知恵と工夫により作られたものです。

全国で現存している畳堤は３箇所と大変珍しいもので、五ヶ瀬川のJR橋～亀井橋の間の両岸に約980m現存しています。

○会を立ち上げるきっかけについてお聞かせください。

きっかけは、国土交通省による光ファイバーを設置する工事でした。「畳堤」は地域（延岡市北町）のみなさんの生活の中に溶け込んだものとなっていましたが、当時の光ファイバーの設置工事を計画通りに実施すると、景観、利用、安全性、緊急時の避難経路確保などの面から問題が生じるということで、地域の中から問題提起とともに工事内容の変更の要望が示されました。

当時の国土交通省の方々も地域の声をどれだけ反映できるか、再度の検討や地域住民の方々との対話に努められました。その地域と行政の地道な努力や協力によって「畳堤」を昔に近い姿で保存することが決まりました。その動きの中で地域住民に「畳堤」を守ろう、洪水の被害から町を守ろうとした昔の人々の知恵や工夫を見直そうという動きが高まったのです。その後、畳堤周辺の風情に合った改修工事が行われ、平成13年7月に畳堤モニュメントが設置され、除幕式が行われました。実際に畳を差し込む実演も行われ、参加者の関心を呼んでいました。そういった動きの中で、平成13年7月に、畳堤の仕組みや古い歴史を調査研究し、先人の知恵を今に活かそう、畳堤を通じて地域のみんなが助け合う心を伝えていこうと「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」が結成されたのです。

○どのような活動をされてきたかお聞かせ下さい。

「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」を中心に、畳堤を残し後世に語り継ごうということで様々な活動が行われました。まず、畳堤の仕組みと歴史を調査研究することから始まりました。畳堤は全国では五ヶ瀬川の他に岐阜県長良川と兵庫県龍野市の揖保川の２箇所しかないということ、扇型のデザインは五ヶ瀬川だけということなどが色々と分かりました。その調査結果をまとめた「畳で街を守る」という冊子を作成しました。それから紙芝居「畳でまちをまもったおはなし」を作成しまして、会員の勉強会、小学校児童や市民への啓発活動を行ったり、「畳堤の詩」や「畳堤マップ」の製作、畳堤をモチーフにした「畳堤サブレ」の開発など様々な活動を行ってきました。また、平成17年台風14号をテーマに防災の心を再認識するために市民参加の防災フォーラムを開催しています。

市民防災フォーラム開催状況

○「市民防災フォーラム」についてお聞かせ下さい。

防災フォーラムは、地域防災をテーマにして、その年々で趣向を凝らして開催しています。平成21年9月開催のフォーラムでは、「そのとき、連携は」というテーマでパネルディスカッションを行ったり、実際に畳の製作実演や畳堤の実大模型に畳をはめ込んだり（写真）、参加者の皆様に楽しく、普段からの心構えや防災の大切さなどを再認識して頂いています。

○今後の活動予定などをお聞かせください。

畳堤をシンボルとして、地域のみんなが工夫し、地域のみんなが助け合って、自分たちの町は自分たちで守るという心を風化させないように今後も活動を続けていきたいと思います。

貴重なお話をお聞かせ頂き、ありがとうございました。

「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」は平成22年河川功労者として（社）日本河川協会より表彰されました。河川功労者表彰は、全国の河川において、河川文化の発展、水防活動、河川愛護活動等に功労のあった個人、団体に贈られる賞です。今回、畳堤の仕組みや歴史の調査研究を行い、河川文化の発展に寄与された功績が称えられ受賞されました。

「みずからまもるレポート」についてのご意見、お問い合せは

延岡河川国道事務所 調査第一課 ☎0982－31－1191

国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所
〒882-0803 延岡市大貫町1丁目2889
■HPアドレス　http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/
■メールアドレス　nobeoka@qsr.mlit.go.jp

延岡土木事務所 河川砂防課 ☎0982－21－6143

延岡土木事務所
〒882-0872 延岡市愛宕町2-15
■HPアドレス　http://www.pref.miyazaki.lg.jp
■メールアドレス　kasen@pref.miyazaki.lg.jp

※各ページに掲載の写真及び記事などの無断転載を禁じます。

平成22年6月発行

のべおか みずからまもるレポート vol.5

「みずからまもる」プロジェクトの現在の状況とこれからの取り組みをお伝えします。

洪水による堤防からの越水状況（岡富地区H17.9台風14号出水時）

五ヶ瀬川・大瀬川・祝子川・北川が市の中心部を流れる延岡市では、平成17年に発生した台風14号により、戦後最高となる水位を記録し、市内5ケ所では堤防を越水、河川水位の上昇による内水被害が発生するなど大きな爪跡を残しました。

●

このような被害を軽減するため、平成17年11月18日「五ヶ瀬川激甚災害対策特別緊急事業（通称：激特事業）」に採択され、22年度までで、集中的に河川改修を進めています。

併せて浸水被害を着実に軽減させるために国・県・市が一体となった「みずからまもる」プロジェクトを設立し、地域や関係機関と連携しながら、河川事業などのハード整備だけでなく、防災情報の提供やハザードマップの公表など、ソフト面での対策も行っています。

現在の進捗状況と今後の取り組みについてレポートします。

五ヶ瀬川の松山橋上流右岸（野田地区）の河道掘削状況

激特事業とは？

洪水や高潮などにより大きな被害が発生した地域において、様々な河川改修を短期間（概ね5カ年）に集中して行い、その後の災害被害を軽減する事業です。平成9年に大きな被害があった五ヶ瀬川水系北川では、すでにこの事業の効果が発揮されています。

「みずからまもる」とは？

災害を防ぐためには、治水事業だけの整備では限界があり、各行政や地域のみなさま自らが被害を軽減するための「災害に強い地域づくり」を進めることが大切です。
このため、水を治める「水からまもる」と、自らをまもる「自らまもる」を併せて、被害軽減に努める意味で「みずからまもる」プロジェクトとし、一日でも早い被害軽減を図ります。

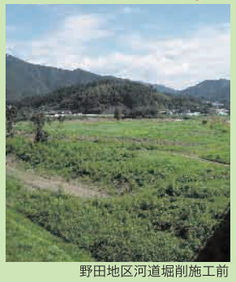
水からまもる ～五ヶ瀬川激甚災害対策特別緊急事業　（通称：激特事業）の進捗状況⑤～

河道掘削　かどうくっさく

河道掘削とは、川を広くまたは深くして洪水を流れやすくする工事です。

五ヶ瀬川では、平成２１年度に五ヶ瀬川（野田地区、河口開口）、大瀬川（隔流地区）の河道掘削を実施し、激特事業における約１４０万立方㎥にもおよぶ河道掘削が完成しました。

より一層、川に親しめる河川敷が整備されましたので、今後、地元住民や行政等とのパートナーシップにより、皆様に親しまれる空間として利活用ができるように維持管理を実施していきます。



野田地区河道掘削施工前

野田地区河道掘削施工後

隔流堤　かくりゅうてい

洪水による河川の流れを分離することにより、合流による水位上昇を防ぎます。

平成２１年度は、ＪＲ日豊本線付近及び国道１０号延岡大橋付近において、盛土工事等を実施し、これまでに所定の高さを確保しました。

平成２２年度は、当該箇所の残りの盛土工事や護岸工事等を実施し、完成を目指します。

隔流堤の施工状況

堤防　ていぼう

洪水が越水しないよう堤防を設置（築堤）、または計画の高さまで高くします（かさ上げ）。

平成２１年度は、祝子川（粟野名地区）の堤防工事を実施しました。

平成２２年度は、五ヶ瀬川（岡富・古川地区）について、宮崎県、延岡市の道路改良事業・区画整理事業と連携し、堤防のかさ上げを継続実施します。

粟野名地区施工状況

安賀多橋架替　あがたばしかけかえ

橋の高さが低く、洪水時の流れの阻害となっていた安賀多橋について、架け替えを行ない洪水を安全に流しやすくします。

工事は現在までに仮設橋を設置し交通の迂回を確保した上で、旧橋撤去と新橋の下部工（橋台・橋脚）の設置が完了しています。

今後は、新橋の上部工（橋けた）の設置を行い、平成２２年度末の供用開始を目指します。

安賀多橋架替の状況

自らまもる ～ 水害に強い地域づくり⑤ ～

災害に強い地域づくりに向けた五ヶ瀬川防災情報の提供

～携帯電話や一般固定電話からも情報入手が可能～

五ヶ瀬川水系浸水被害軽減対策協議会（国土交通省・宮崎県・延岡市）では、災害に強い地域づくりの推進に向け様々なソフト対策を展開しており、国土交通省では、その取り組みの一環として、五ヶ瀬川に関する防災情報の提供を重点的に推進しています。

インターネットによる防災情報の提供

平成20年から、インターネットを利用して五ヶ瀬川流域の防災情報をいち早く提供する「五ヶ瀬川防災情報システム」の運用を開始し、パソコンから様々な情報が入手可能となっています。

- ■レーダー雨量
- ■水位
- ■雨量
- ■情報掲示板
- ■河川カメラ画像

▶http://gokasegawa-bousai.qsr.mlit.go.jp/index.php

インターネット版の画像

携帯電話への防災情報の提供

水位・雨量・レーダ雨量・河川監視カメラ画像や水防警報・洪水予報等の五ヶ瀬川防災情報システムの情報が携帯電話からも入手可能となりました。また、洪水時のみ提供していた河川監視カメラ画像は、インターネットも含めて２４時間閲覧できます。

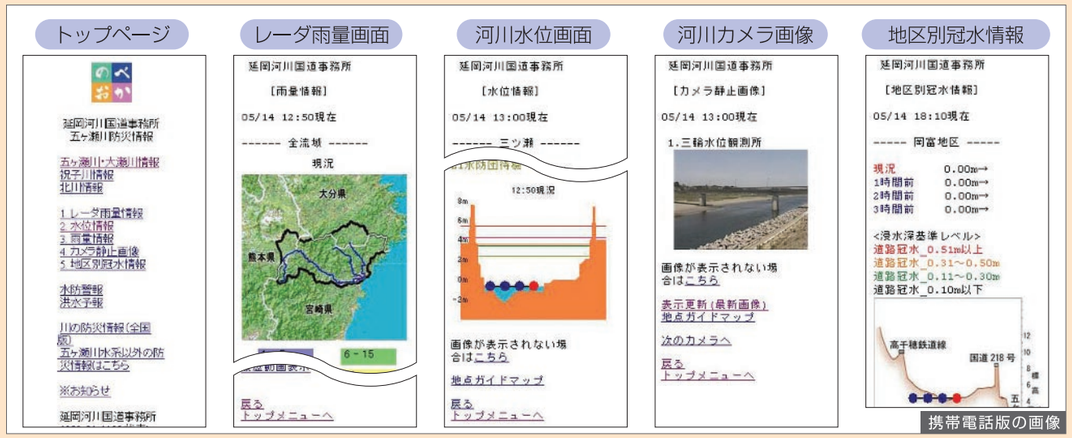
▶http://gokasegawa-bousai.qsr.mlit.go.jp/keitai/top.html

一般固定電話への防災情報提供

インターネットや携帯電話を利用されない方でも、流域の代表的な地点の水位・雨量等の情報が一般固定電話から音声で入手できるようになりました。

▸0982－31－3000

※発信側の回線数が限られていますので、話し中の場合は時間をおいてお掛け直し下さい。
尚、音声での情報は携帯電話からでも入手できます。



携帯電話版の画像

国土交通省としても、防災関係機関や、さらに多くの住民の方々に幅広く活用して頂くことで、避難等の危機管理に役立てて頂きたいと考えております。

【問い合わせ】 国土交通省 延岡河川国道事務所 調査第一課（☎０９８２－３１－１１９１）

※情報入手にかかる通信料は個人負担となります。

「みずからまもる」プロジェクト

洪水による堤防からの越水対策が完了しました。

平成22年３月に完成した野田地区の河道掘削や五ヶ瀬川の河口開口掘削、追内川排水ポンプ場等に続き、祝子地区の築堤が完了し、隔流堤については所定の高さを確保しました。

これらの対策によって、平成17年９月に甚大な被害をもたらした台風14号と同規模の洪水に対して、堤防からあふれることなく洪水を流すことができるようになりました。

隔流堤施工状況

なお、平成22年度末の供用開始を目指す安賀多橋架け替えや関連事業との調整により施工を継続している岡富地区など一部の工事については、早期完成に向け施工を行いますので、引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

安賀多橋架替の状況

排水ポンプ場 はいすいぽんぷじょう

洪水時に対象支川の水を、ポンプを使って本川に強制的に排水する施設です。

追内川排水ポンプ場（北川）（毎秒12トン）

平成１９年度に工事着手し、平成２１年度に完成しました。

通常、追内川の水は、水門を開けて自然流下により排水しますが、北川増水時には、水門を閉めてポンプを稼動させ、北川に排水することで追内川周辺の浸水被害を軽減します。

追内川排水ポンプ場

追内川排水ポンプ場（航空写真）